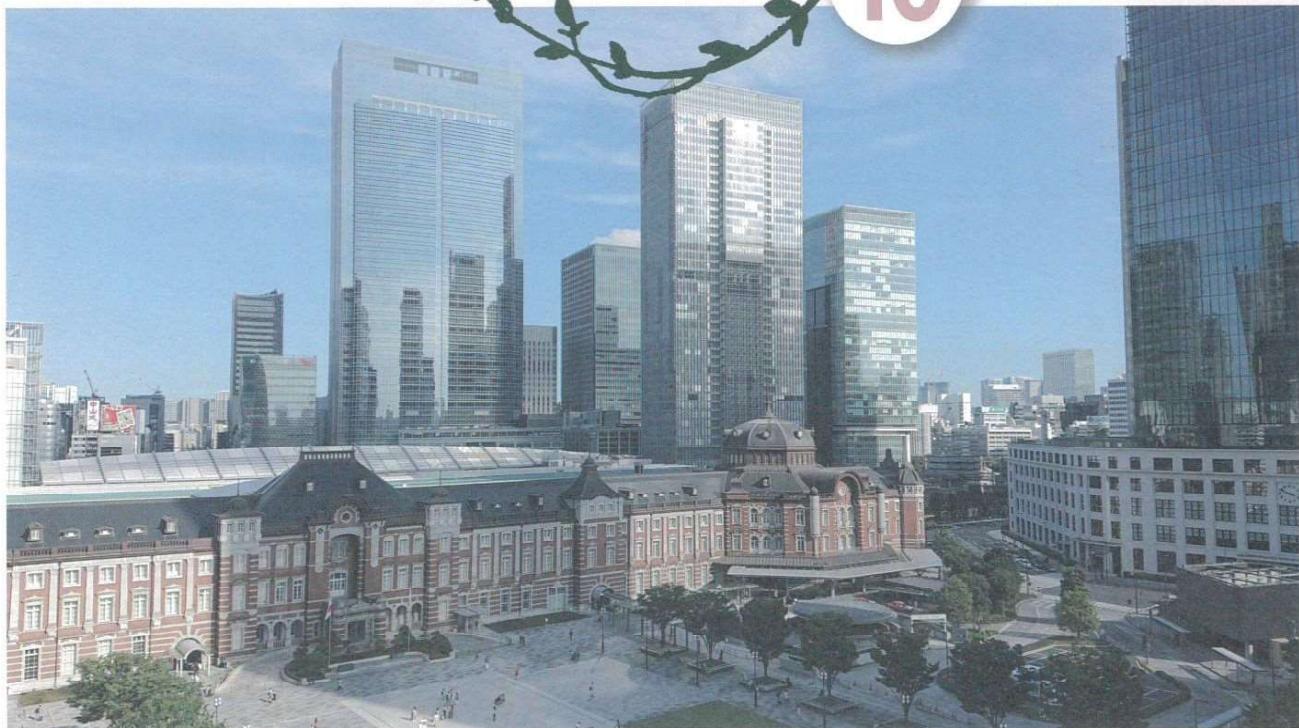


〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印 刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



東京駅 丸の内駅舎・千代田区

西徳寺の予定

10月

- 2日(日) 午後2時半 城西ブロック会聞法会
8日(土) 正午 燈虹塾 船上セミナー
8日(土) 午後5時半 同行会「勸衆偈」に聞く 法話:大谷最高顧問
9日(日) 午後2時 城東ブロック会聞法会
15日(土) 午後2時 定例聞法会
19日(水) 午後1時半 婦人会聞法会
23日(日) 午後2時 城南・中央ブロック会聞法会
25日(火) 午後3時 総代会

11月

- 3日(木) 燈虹塾 認定式
5日(土)・6日(日) 報恩講
13日(日) 午後2時半 城北ブロック会聞法会
16日(水) 婦人会食事会
19日(土) 午後5時半 同行会「勸衆偈」に聞く 法話:山崎住職
21日(月)～28日(月) 御正忌報恩講(本山佛光寺)
27日(日) 午後2時 帰命法会「伊勢大神楽」上映会
※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

地獄

源信僧都がお書きになった「往生要集」の中に、「八大地獄」の事が見てきたように詳しく記されています。

極楽・地獄は本当にあるのか、真面目に尋ねられる方があります。地獄は有るか無いかの問題ではなく、人間の心が作り出す世界であります。交通地獄、殺人地獄、強奪地獄、戦争地獄、また誰しもが経験する孤独地獄など。この地獄から解放される道は何か、仏道に求めざるを得ない。



えこおファイル在庫あります。



10月の山門の言葉

不幸はその瞬間、瞬間で感じるから苦しい
幸せは後からわかるんだ

ビートたけし

ここ最近、とにかく良いことがない。都合の悪いことばかりが続き、ストレスから寝ている間に歯ぎしりをし、歯やアゴの調子が良くない。悪いことが続くと、お祓いでもしてもらいたくなる。おそらく、このような不幸を感じる時、新興宗教に魅力を感じるのであろう。

幸せを願わない人はいない。人間の進歩発展の歴史も、幸せを求めてきた結果である。寒さをしのぎ、暑さを避け、幸せになる便利さを求め続けてきた。それなのに不幸はなくならない。果たして何を幸せとして願っているのだろうか。

今月のビートたけさんの言葉を私なりにいただくと、私たちが感じる不幸だけでなく、幸せということも、瞬間的な感覚でしかない。そして後からわかる幸せ、つまり今ある幸せに疎いということになるのではないか。幸せの語源は「仕合わせる」とあり、めぐり合わせのことを行う。今ある幸せ、めぐり合わせと考へると、今の私を成り立たせる関係・環境のことであろう。それは私たちに与えられている幸せ、いのちの足元・大地なのだ。

「私が求める幸せ」と、「与えられて今私がある幸せ」。そこに矛盾があるのだ。今現にあるのは与えられた幸せしかない。本当の幸せは、思いによるのではない。多くの歴史、大地に支えられてある、「与えられたこの身」にあるのだ。満足を知らない私に、今この身が与えられている。

(仲井 真裕記)

ランドマーク 東京駅

今回のランドマークは、東京の玄関口「東京駅」です。

日本銀行本店なども手掛けた日本建築界の先駆者、辰野金吾の設計により、明治41年(1908年)3月に、中央停車場という名称で着工、大正3年(1914年)12月20日に東京駅として開業し、現在1日の利用客数は約80万人。日本で7番目の多さです。

昭和20年(1945年)、東京大空襲で3階部分が焼失し、戦後に急ぎ復旧工事をし、八角屋根の2階建てとなっていました。平成19年(2007年)から、創建当時の姿に戻すべく、保存・復原工事が始まり、平成24年(2012年)に完成しました。3階と屋根は創建時の資料などを詳細に調べて復原され、さらに耐震・免振など、建物の安全性を高めたのが、現在の建物です。

丸の内駅舎内には、大正4年から営業している「東京ステーションホテル」もあります。



東京駅の石碑。後ろは皇室専用貴賓室出入口



8羽の勇猛な鷲、8つの干支の彫刻があるドーム内

うばだいしや ~共懶共歩~

テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしや)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:淨土論=無量寿經優婆提舍願生偈)

今回は平成7年まで西徳寺で勤められ、現在は瑞林寺(新潟市)住職、また本山佛光寺の総務として活躍されている廣澤晃隆さんに伺いました。実は山崎住職とは従兄弟であり、住職が西徳寺に入寺するきっかけでもあります。

◆西徳寺との縁

大学を卒業する時に、白坊に帰るのが嫌だったんだ。当時、輪番の大谷さんが、毎年うちのお寺の報恩講に来てくださっていて、「西徳寺で使って下さい」と直談判したら、「おお、いつでもおいで」と仰ってくださいました。父に相談もせず、突然言い出すもんだから目がテンになっていた(笑)。すぐに就職が決まり、卒業後、西徳寺に入寺した。

その時は、同じ年なのに先輩の、時ちやん(深澤(旧姓時平)正見さん)と木村君(木村正実さん)がいて複雑な気持ちだった。2人もそう思つてたと思うよ。

◆人に恵まれた学び

恥ずかしい話、大学の時は授業も疎かにサッカーバカリしてた(笑)。友人や後輩のおかげで何とか卒業できたんだ。でも西徳寺に行つて人生が一変した。生死の問題や、人生に悩む人が答えを求めてくる。何も答えることのできなかつた自分が悔しかつた。当時、浅草本願寺に専修学院があり、院長であつた宗止元先生のお話を聞きに行くようになつた。宗先生は西徳寺の聞法会に毎月来られていたのがきつかけだった。それと當時、西徳寺に勤めていた河村一広さんに、「宗先生の話も大事だけど、他の先生の話も聞かなきやダメだ」と首根っこつかれて学院に連れていかれた。それから毎日仕事の後学院に通うことになつた。怖い先輩だつたけど、お陰で仏教の学び方や人の出遇いを教えてもらつたと思う。

◆母の死を縁として

西徳寺で充実した生活をしていた矢先、母が癌になつた。57歳だったから今の自分の歳なんだよね。母の「新潟にはいつ帰つてくるの」という尋ねにいつも「いずれ帰るよ」とこまかしていた。すると母が悲しそうな顔をするんだよ。入院後も、忙しいからと帰るのをためらつていたら、妹から「末期だから早く来て」と泣き

ながら電話がきて、我に返つた。帰つた時はセルヒネの副作用で会話もできなくてね、もつと早く帰つておけばと今も後悔しているよ。

◆学びの場を求めて

新潟に戻つてから、寺や生活の事で、毎日父と喧嘩していた。父からは学ぼうとせず、外ばかり勉強の場を求めていた。地域の活動などにも参加し、お寺のことは父に任せっぱなし。父も厳しく言ってくるが、文句としてしか聞けなかつた。でも結局は父の姿を見て生きてるんだよね。今考えれば、おんぶに抱っこで好きにさせてもらつていた。

◆父親の後押

昨年4月、本山内局の総務の声がかかって、突然の事で迷つたが、「本山で勉強して来い」と、昨年亡くなつた父の遺言を胸に、覚悟をもつて勤めているけど、やっぱり心も揺らぐし体もきつい。でも、今の自分がるのは西徳寺で育てられたお陰だと思う。西徳寺が私の青春そのもの。その時、点であつたものが今みんな線になつて繋がつてくる、不思議な感動を感じるんだよね。

・・・・・

人の出遇いを大切にされてきた廣澤さん。その姿勢は変わらず、今もその力を本山で發揮されておられます。忙しい中、ありがとうございました。(聞き手:蓮井 邦宗)



秋季永代経法要 報告

台風14号による大雨に始まり、雨の多かった令和4年の秋彼岸。22日には秋季永代経法要をお勤めいたしました。

勤行の後、山崎住職と法務員 高橋淳より法話がありました。共通のご讃題は、親鸞聖人が著された『教行信証』の後序より、「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す」。

永代とは、互いに導き合い、訪ね合うような人間関係であり、その関わり合いの中に私がいる。それなのに私たちは、個人としての権利を主張し、当たり前の関係ということを忘れて生きているのではないかとお話いただきました。

(仲井 真裕 記)



山崎住職



高橋淳

千束幼稚園主催「夕涼み会」報告

8月下旬、近隣の千束幼稚園主催の「夕涼み会」が西徳寺で催されました。

手持ち花火の他、吹上げ花火や仕掛け花火などもあり、園児の皆さんは目を輝かせ、歓声を上げながら楽しんでいました。

そして嬉しいことに『夏休みの思い出』という宿題に、この夕涼み会を描いたお子さんがとても多かったそうです。

また当日、園児の賑やかな聲を聞いた近所の親子さんが、「花火をやったことがない」と飛び入りで参加されました。

花火を遊べる場所がない地域なので、今年もお子さん達の貴重な体験のお手伝いができたことを、大変嬉しく思っています。

来年も楽しみにしています。

(坊守 山崎 晴美 記)



皆様の代わりに、お花・お線香等、お墓にお供えできます。

報恩講のご案内

日時：11月5日(土)

午前10時 初日中法要

法話

午前11時半 混声合唱団『エコー』

お斎(昼食)

午後1時半 大逮捕法要

法話

午後3時半 『御伝文』拝読

11月6日(日)

午後10時 満日中法要

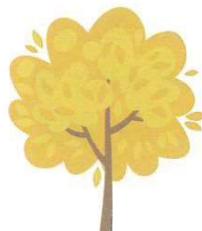
法話

布教使紹介

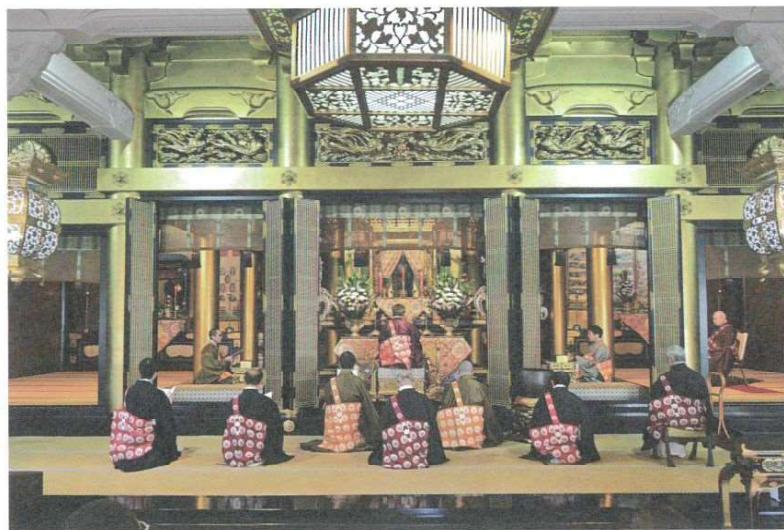
この度の報恩講は、島根県・順念寺住職、馬場真昭布教使です。馬場師は西徳寺の法務員として、平成元年から10年まで活躍されました。私も学生時代からお世話をになった温かいお人柄の方です。

ご法話も生活に密着したお話をしてくださいます。今回も共感を覚えるお話を頂けると期待しております。是非、ご家族やご友人などお誘い合わせてお参りください。

住職 山崎 哲



馬場真昭 布教使



昨年の報恩講（浮世写真家 喜千也様撮影）

◆お参りご希望の方はお電話にてお申し込み下さい。

◆5日はお斎(昼食)のご用意がございます。

◆恐縮ではございますが、法務執行のために懇意のご協力をお願い申し上げます。



「一代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。



坊さんのツブヤイッター



@ホウシュウ

映画「ONE PIECE FILM RED」を観てきた。40手前のおっさん1人で映画館へ行き、おっさん1人で最後ボロ泣きした(笑)。マスクのおかげでなんとか誤魔化せたが、自然とこぼれてくる涙を止めることはできなかった。1人映画もいいが、誰かと共感できるのも映画の醍醐味。



#映画って本当に素晴らしいですね #歳と共に涙腺が・・・ #ワンピース好き集まれ!!

内愚外賢

～賢者の信を聞いて、
愚禿が心を顯す～

スポーツ、特に団体競技が好きで、よくスポーツニュースを見ます。今年は応援しているヤクルトスワローズが好調で、試合の結果を知るのが楽しみです。

最近テレビを見ていると、団体競技のはずが、個人の成績や記録ばかりが報じられることが多いように感じます。チームとして報じられるのはオリンピックなど、国を背負っている時ぐらいで、何かスポーツを見る視点も変わってきてるのではないかでしょうか。

勝ち負けを超えたドラマや美学が、スポーツにはあると思います。目立つ人だけでなく、各々が与えられた役割を果たし、補い合いながら一をかたどる。それはスポーツに限った話ではありません。そういう信頼関係を今一度確かめていきたいと思います。

(編集長 仲井 真裕 記)



しばらく行かない神宮球場

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook